

1. 調査について

(1) 調査目的

沖縄では、亜熱帯地域の温暖な気候条件を活かし、本土にない特色ある作物を数多く生産しており、特に、果実のうちパインアップル、シークワーサー、マンゴーの生産量は全国1位である。一方、沖縄県の人口は平成30年末に145万人、入域観光客数も984万人といずれも増加傾向にあるものの、農業産出額は横ばいで推移しており、新たな品目への取組が求められるところである。

このような中、いちご、バナナ、コーヒー等沖縄での生産量が少ない作物（以下「希少作物」という。）は、高単価で取引されるほか、観光資源として利用されることで、地域農業の振興につながる有力な作物として特に期待されている。しかしながら、現在のところ産地化等に向けた栽培技術の確立や観光農園としての経営モデルの検討等は進んでいない。

このため、沖縄で生産される希少作物について、生産や流通、経営面での課題等の調査、基礎データの整理を行い、産地化や観光資源化の検討結果を取りまとめることにより、新規作物の生産やこれらを活かした観光農園等の6次産業化に取り組まれる方及び関係機関の検討資料とするものである。

(2) 調査・検討内容

① 調査品目の概況

いちご、バナナ、コーヒーの3品目について、農林水産省及び各機関の既存資料、統計資料に加え、関係団体や生産者及び現地調査により得られた情報を基に作成する。

② 品目別収益性・栽培体系事例

各調査品目を生産している経営体の決算書類等の閲覧や現金収支、労働時間、栽培方法等について面接調査を行い作成する。

③ 調査品目の産地化及び観光資源化検討

上記①②の結果を基に産地化や観光資源化について品目別及び全体としての検討を行い、取りまとめる。

④ 今後産地化等について検討を要する希少作物

調査品目以外に、全国において消費や輸入が増加している希少作物や、沖縄での観光資源化について検討を要する希少作物を調査する。

⑤ 沖縄の主要果樹の動向

国内において沖縄県の生産量が最も多い作物（パインアップル、シークワーサー、マンゴー）について、生産量や産出額等についての動向を取りまとめる。

⑥ 参考資料

沖縄県の農業生産の動向、農作物を生産する上での課題、観光需要に関する資料を取りまとめる。